

日本国内 自動車解体事業者様向け

駆動用バッテリー回収マニュアル

《リチウムイオン バッテリー 共通編》

※本書と併せて「駆動用バッテリー取り外しマニュアル
《リチウムイオン バッテリー 車種別編》」を必ずお読みください。

2019年7月

本田技研工業株式会社

INDEX.....

1. はじめに	2
■安全に関する表示について	
2. 駆動用バッテリーのリサイクル概要	3
■駆動用バッテリーの回収・リサイクル フロー	
■駆動用バッテリー回収手順	
3. 駆動用バッテリー高電圧回路作業の注意	6
■高電圧回路作業の全般的な警告	
■高電圧回路作業を行う場所についての警告	
■駆動用バッテリー取り扱いおよび保管する場合の警告	
4. 駆動用バッテリー液漏れ時の対応方法	9
5. 駆動用バッテリー火災時の対応	10
6. 駆動用バッテリー引渡し及び荷姿要領	10

本マニュアルの内容は予告なく変更する場合があります。

1. はじめに

このマニュアルは使用済みハイブリッド自動車廃棄時に、搭載されている駆動用バッテリーのリサイクルを目的として、駆動用バッテリーの回収について解説するものです。

本マニュアルに記載しているハイブリッド車の駆動用バッテリーには、リチウムイオンバッテリーを使用しています。

車両からのリチウムイオンバッテリー取り外し方法については、各車種別に「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」がありますので、そちらを必ずお読みください。

また、ニッケル水素バッテリー搭載車の駆動用バッテリー取り外し・回収については各車種別の「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」がございますので、そちらをご参照願います。

リチウムイオンバッテリーは、高電圧かつ重量物 のため、本書ならびに各車種別の「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」を熟読の上、安全に作業を行ってください。

取り外しを含め、高電圧部位を扱う作業を行っていただくにあたっては、事前に労働安全衛生法第59条ならびに労働安全衛生規則第36条により、特別講習の受講が義務付けられています。




リチウムイオンバッテリーは、回収してリサイクルされますので、絶対に廃棄しないでください。必ず本書に従い、自動車再資源化協力機構に連絡し、運送会社に回収してもらってください。

使用済自動車の再資源化等に関する法律施行規則の一部が改正されました。(第九条第二号)
 解体業者による使用済自動車の再資源化に関する基準として、使用済自動車から取り外す必要のある部品にリチウムイオン電池、ニッケル・水素電池が追加されました。

(2012年2月1日から施行)

■安全に関する表示について

※以下のシンボルマークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

2. 駆動用バッテリーのリサイクル概要 《リチウムイオンバッテリー》

回収されたバッテリーは有効活用されます。ハイブリッド車廃棄時のバッテリーリサイクルに、ご協力をお願いいたします。



- 車両廃棄の際は駆動用バッテリーを必ず取り外してください。

リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、リチウムイオンバッテリーを搭載したまま車両のプレスなどを行うとリチウムイオンバッテリーが破損し、

- 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- リチウムイオンバッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。

- 使用済みの駆動用バッテリーは他の車両への搭載や、転売等をしないでください。

リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、適切に回収されずに第三者が高電圧部位に触れると感電する恐れがあります。

また、適切に回収されないリチウムイオンバッテリーが破損した場合、内部から漏れた電解液により炎症等を負ったり、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

リチウムイオンバッテリーは搭載されているHondaハイブリッド車専用であるため、決められたHondaハイブリッド車以外で使用すると発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

- 駆動用バッテリーに液漏れ、変形、破損、異音や熱の発生が認められる場合は、作業前に必ず下記に連絡し、指示に従ってください。

リチウムイオンバッテリーに異常があるまま取り外し作業を行うと短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

- 駆動用バッテリーは各車種別「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」で指示する以上の解体を行わないでください。

リチウムイオンバッテリー内部にある電池セルは高電圧を有する場合がありますので、本書で指示する以上の解体を行うと短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。

※ 車両から駆動用バッテリーを取り外した際は、自動車再資源化協力機構ウェブサイト内「リチウムイオンバッテリー-引取依頼システム」より、必要事項を記入のうえ、回収にご協力ください。

自動車再資源化協力機構

回収依頼 : <http://lib-jarp.org/>

お問い合わせ : 0570-000-994

※ 車両から駆動用バッテリーを取り外す前、または取り外す際に異常が認められた場合は、必ず下記にご連絡ください。

本田技研工業(株) お客様相談センター
0120-112010(フリーダイヤル)

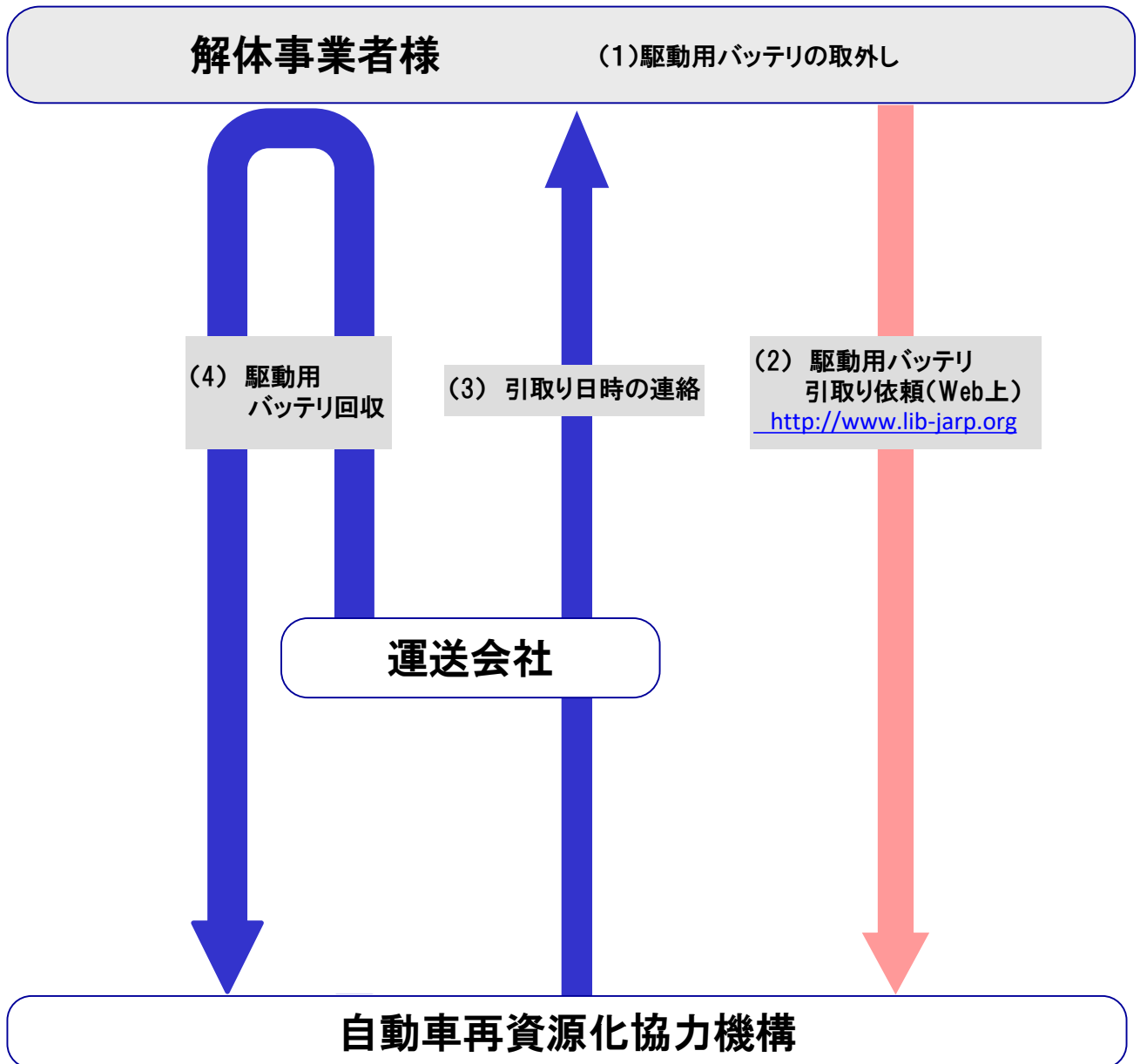
本田技研工業株式会社では転売・譲渡・改造等による専用車両以外への駆動用バッテリーユニット使用による事故・損害等については責任を負いかねます。

転売・譲渡・改造等の結果、事故防止を目的とする使用環境の制限、使用条件の制限、設置据付条件の制限、使用前準備の制限、使用者の制限、予測される誤使用の禁止、保守・点検、異常時の処置等についての告知がされないことによりその後の使用者等において危険性が認識されず、事故が起こった場合、転売・譲渡等を行った事業者等の製造物責任が問われる可能性があります。

本田技研工業株式会社では駆動用バッテリーユニットの回収を自動車再資源化協力機構を通して実施していますのでご利用ください。

■ 駆動用バッテリー(リチウムイオンバッテリー)の回収・リサイクルフロー

駆動用バッテリー(リチウムイオンバッテリー)は、下図の流れで回収・リサイクルを行います。



2019年7月1日 引取りご依頼分より、リチウムイオンバッテリーの引取依頼先は「ホンダバッテリー回収窓口」から「一般社団法人 自動車再資源化協力機構」へ変更となりました。

引取り依頼の際には、自動車再資源化協力機構のホームページをご参照いただき「リチウムイオンバッテリー引取依頼システム」より必要事項を入力の上、ご依頼ください。

自動車再資源化協力機構 ホームページ⇒<http://www.jarp.org/>

リチウムイオンバッテリー回収概要⇒<http://www.jarp.org/duties/lib>

引取依頼システム⇒<http://www.lib-jarp.org>

引取依頼に関するお問い合わせは、自動車再資源化協力機構
TEL:0570-000-994へご連絡ください。

■ 駆動用バッテリー回収手順

(1) 駆動用バッテリーの取り外しおよび保管

- 取外し作業手順については、各車種別の「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」をご覧ください。
- 保管については本書の「駆動用バッテリーの取り扱いおよび保管する場合の警告」をご覧ください。
- 「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」通りに、取り外し作業をしていただかないと、回収をお断りする場合がございます。

(2) 自動車再資源化協力機構ホームページより引取依頼

- リチウムイオンバッテリー引取依頼システムより、必要事項を入力のうえ、ご依頼ください。
- リチウムイオンバッテリー引取依頼システムURLはこちら ⇒ <http://www.lib-jarp.org/>

(3) 引取日のご連絡

- 運送会社より引取日時などを連絡させていただきます。
- 日時が確定すると運送会社より「引取日時連絡票」がFAXされますので、引き渡すLiBに張り付けてください。

(4) 回収

- 指定の運送会社が引取りに伺います。
- 荷姿は車種ごとに異なりますので、「駆動用バッテリー取り外しマニュアル リチウムイオンバッテリー 車種別編」で指定する荷姿にしてください。
- 運送会社が伺いましたら、運送会社ドライバーの目視確認、ヒアリング事項に答え、「荷姿状態確認書」と「管理票」にLiB引渡しのサインをしてください。
- 運送会社のトラックへのLiBの積み込みを安全に配慮し、実施してください(車上渡し)。
- 本リチウムイオンバッテリー回収・処理スキームは廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)に準じておりますので、運送会社がお渡しする管理票A票は5年間保管をお願いいたします。

3. 駆動用バッテリー高電圧回路作業の注意

《リチウムイオンバッテリー》

■高電圧回路作業の全般的な警告



警告

- 駆動用バッテリーは直流高電圧回路が使用されているので、解体作業を行う場合は、電気回路遮断と絶縁処理を確実に実施してください。
リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、電気回路を遮断しなかったり絶縁処理を行わずに作業を行った場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」の指示手順以外の高電圧部位の分解やハーネスの切断は絶対に行わないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。高電圧遮断後であっても不用意な分解やケーブル、ハーネス等の切断は、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 作業中の車両には高電圧注意標示「高電圧作業中触るな」をステアリングおよび作業場所に表示し、安全を確保してください。
リチウムイオンバッテリー取り外し作業中、第三者が不用意にENGINE START/STOPスイッチ(またはエンジンスイッチ)を「ON」にした場合、高電圧が復活し、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 駆動用バッテリーの取り外し作業は、一人で行わないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。単独での作業は万の際、救援を求めることができません。必ず複数人での作業、または他の人から作業状況が見えるようにして作業を行ってください。
- 短絡の恐れのある金属製品を身につけて作業をしないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。身につけた金属製品が高電圧部位に接触すると、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- ペースメーカー等の電子医療機器装着者はこのシステムの作業を絶対に行わないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。電子医療機器に影響を及ぼし重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡する恐れがあります。
- 不用意に高電圧部位に触らないでください。
リチウムイオンバッテリーの取り外しには高電圧回路の作業を伴います。不用意に触れると短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 重機による作業は行わないでください。
リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、重機による作業で駆動用バッテリーに衝撃を与えたり、リチウムイオンバッテリーが破損した場合、
- 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- リチウムイオンバッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。

■高電圧回路作業を行う場所についての警告



警告

- 雨や水がかかったり、結露が発生するような環境で作業しないでください。
リチウムイオンバッテリーは内部に高電圧部位があるため、水分により濡れた場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 必ず消火設備のある場所または消火器（油火災、電気火災に適合したもの）がある場所で作業を行ってください。
リチウムイオンバッテリーが万一、短絡による発火、発煙等を起こした場合に対応できる必要があります。
- 周囲に障害物のない、安定した床面の安全に作業できる場所で作業を行ってください。
リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、落したり、転倒させて衝撃を与えてリチウムイオンバッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオンバッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 駆動用バッテリーが長時間直射日光にさらされたり、高温になる場所では作業を行わないでください。
リチウムイオンバッテリーには高電圧部位があるため、高温による変形などによりリチウムイオンバッテリーが破損した場合、
 - 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
 - リチウムイオンバッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。

■ 駆動用バッテリー取り扱いおよび保管する場合の警告



警告

- 駆動用バッテリーに、衝撃を与えたり圧力をかけないでください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、衝撃や圧力を与えてリチウムイオン バッテリーが破損した場合、
- 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 駆動用バッテリーが長時間直射日光にさらされたり、高温になる場所に保管しないでください。
高温によるリチウムイオン バッテリーの変形・損傷などが発生した場合、液漏れを起こし炎症等を負ったり、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 雨や水がかかったり、結露が発生するような環境で駆動用バッテリーを保管しないでください。
リチウムイオン バッテリーは内部に高電圧部位があるため、水分により濡れた場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- 周囲に障害物のない、安定した床面に置いて保管してください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、落としたり、転倒させて衝撃を与えてリチウムイオン バッテリーが破損した場合、
- 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 駆動用バッテリーは積み重ねたり、他の物を載せたり、不安定な場所に置いたりしないでください。
リチウムイオン バッテリーには高電圧部位があるため、落下させたり重量物を乗せてリチウムイオン バッテリーが破損した場合、
- 短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。
- リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液による炎症等を負う恐れがあります。
- 駆動用バッテリーが液漏れしていた場合は、必ず液漏れ時の対応方法に従って対処してください。
リチウムイオン バッテリーのセル内に封入されている電解液は、消防法の危険物第4 類第2 石油類非水溶性液体に該当します。
- 駆動用バッテリーが液漏れしたり、異臭がする場合は、ただちに火気より遠ざけてください。
リチウムイオン バッテリーから漏れた電解液に引火し、発火、発煙、破裂等の恐れがあります。

4. 駆動用バッテリー液漏れ時の対応方法 《リチウムイオンバッテリー》



警告

- 駆動用バッテリーから液漏れが見られた場合は、以下の事項を遵守するとともに、直ちに本田技研工業(株) お客様相談センター 0120-112010(フリーダイヤル)まで連絡し、取り扱いについての指示を受けてください。
- 駆動用バッテリー液漏れ時は、下記の要領に沿って正しい処置を行ってください。
リチウムイオン バッテリーのセル内に封入されている電解液は、消防法の危険物第4 類第2 石油類非水溶性液体に該当します。処置を誤ると炎症等の重大な傷害を受けることがあります。
- 駆動用バッテリー液が目に入ったり皮膚に付着しないよう充分注意してください。万一、目に入ったり皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄した後、専門医の診断を受けてください。
リチウムイオン バッテリー電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や傷害を受ける危険があります。
- 漏出した駆動用バッテリー液に、第三者が不用意に近づいたり触れることのないよう、ガード等で周囲を封鎖するなどの処置を講じてください。
リチウムイオン バッテリー電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や傷害を受ける危険があります。

リチウムイオン バッテリー電解液は揮発性有機溶剤です。万一、リチウムイオンバッテリー付近に液漏れが確認された場合は、リチウムイオン バッテリー電解液が含まれる恐れがあるため、下記の手順により処置を行ってください。

- (1) 作業は、耐溶剤用保護具[ガスマスク(有機ガス用)、ゴム手袋(耐薬品用)、保護メガネ]を必ず着用の上行ってください。
- (2) 乾燥したウエス等で漏れた液を拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。
※ 電解液およびその蒸気は、水(空気中の水分も含む)と反応して、酸性の物質を生成する可能性があります。
- (3) 野外では風上側から、屋内の場合は十分に換気をしながら行ってください。電解液の揮発成分を吸入してしまった場合は、直ちに換気が十分で新鮮な空気のある場所へ移動し、気分が悪い場合は速やかに医師の診断を受けてください。
※電解液の揮発成分を吸入した場合、吐き気や呼吸困難を引き起こす恐れがあります。
- (4) リチウムイオン バッテリー電解液が皮膚に触れた場合は、直ちに多量の水で洗い流してください。リチウムイオン バッテリー電解液が付着した衣服は直ちに脱いでください。かゆみや炎症等、皮膚に変化があったり、刺激痛があったりする場合は、速やかに医師の診断を受けてください。
- (5) リチウムイオン バッテリー電解液が万一、目に入った場合は、こすらずに直ちに多量の水で洗い流してから専門医の診断を受けてください。自身で水道等まで移動できない時は、大声で救援を求めてください。

- (6) リチウムイオン バッテリー電解液が口に入った場合は、水で口内をよく洗い、無理に吐かず、速やかに医師の診断を受けてください。

※事故などで、損傷を受けた車両およびリチウムイオンバッテリーの処置は
HONDAホームページ『電気自動車(EV)・ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い』をご参照ください。
<http://www.honda.co.jp/rescue-auto/>

本田技研工業(株) お客様相談センター 0120-112010(フリーダイヤル)
受付時間:9時~12時 13時~17時

5. 駆動用バッテリー火災時の対応



警告

- リチウムイオン バッテリー付近に万一火災が生じた場合は、消火器(油火災: ガソリン、石油、油などによる火災および電気火災: 電気配線、電気機器などによる火災に有効な消火器)で消火してください。

初期消火については、少量の水による消火はかえって危険な場合があるため、水をかける場合は消火栓などから多量に放水するか、消防隊の到着をまってください。

6. 駆動用バッテリー引渡し及び荷姿要領 《リチウムイオンバッテリー》

廃棄車両より取り外した駆動用バッテリーは、車種ごとに引渡し時の荷姿が異なります。各車種別「駆動用バッテリー取り外しマニュアル」に従い、車体から取り外し、引渡しをしてください。



警告

- 駆動用バッテリーが破損したり、液が漏れている場合は、本田技研工業(株) お客様相談センター 0120-112010 (フリーダイヤル)まで連絡し、取り扱いについての指示を受けてください。

リチウムイオン バッテリーのセル内に封入されている電解液は、消防法の危険物第4 類第2 石油類非水溶性液体に該当します。

- 駆動用バッテリーを保管する場合は、「駆動用バッテリー取り扱いおよび保管する場合の警告」に従い、安全に保管してください。

リチウムイオン バッテリーは内部に高電圧部位があるため、水分により濡れたり、何らかの原因で変形・破損した場合、短絡による発火、発煙、破裂および感電等の恐れがあります。